道徳の時間学習指導案

呉市立横路小学校
教諭 木村 智子

- 1 日 時 平成24年12月13日（木）
- 2 年・組 第3学年3組 男子20名 女子18名 計38名
- 3 場 所 3年3組教室
- 4 主題名 たくさんの人に大切にされる命 3－（1）生命尊重
- 5 ねらい たくさんの人に支えられる「いのち」について考えること通して、自分の命は尊いものでありたくさんの人に支えられている命であり、たくさんの人を支える命であることを知り、全ての命を大切にしていこうとする心情を育てる。
- 6 資料名 「いただきたいのち」（出典 東京書籍）
- 7 主題設定の理由

- 本主題は、小学校学習指導要領解説道徳編の中学年の内容項目3－（1）「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。」をもとに設定したものである。

生命あるものは全てかけがえのないものである。しかし、現在、毎日のようにニュースなどでは、人の命がうばわれる事件が扱われている。その中には、自らの手によって命を落とすものもあれば、人間関係のもつれなどから、人が人の命をうばうものもある。そのため、人の命はどの命もかけがえのないものであることや、お互いの命を大切だと感じ、支え合って生きていくことが大切であることを指導することは重要であると考えます。

「いのち」は、大きく分けて認知的な見方と情意的な見方がある。本主題は情意的にとらえることもでき、命は、その命を大切に思う人々によっても支えられていることに気付かせることのできるものである。他者の視点に立って考えることができるこの時期に、多くの人の支えによって輝く命について考えることは、自分の命だけでなく他者の命も大切であることに目を向けて考えさせるのに有意義であると考えます。

- 本学級の児童は、これまでに、生命尊重を主題とした授業を受けている。1学期は、同級生の死を題材に命の大切さについて話し合った。命は一つしかない大切なものであることは多くの児童が理解している。本主題にかかわって、「守る」や「助ける」といった思いを描く児童も2割程度見られる。命よりも大切なものとして、家族や友達など自分以外の命を挙げる児童も多く、お互いの命を大切にしていこうとする気持ちを育みつつあるようである。しかし、生活場面の中では、思うようにいかないと、相手を傷つける言葉を友達に対して安易に使ってしまうという児童も見られる。

- 本資料は、命の共生性（支え合い）を描いた資料である。主人公のゆきは、2年生の夏、血液の癌を発症する。病氣と闘う中で、自分の頑張りはもちろんのこと、病院での治療、家族の支えがあった。治療に血液がたくさんいることを知った学校では、おねがいの手紙を作り、たくさんの血液を集めることができた。その甲斐あって、ゆきの病氣は治り退院することができた。最後は、『ゆきはたくさんの人からいのちをいただいたのよ』と母から言われた言葉が忘れられない。』というゆきのお礼の手紙で締めくくる。その言葉を贈った母は、命のありがたさを感じながら元気になったゆきを見守っている。

たった一つの命をかけがえのないものとして、たくさんの人が「ゆきさんの命を守ろう」という思いで協力する。そこまで、大切にされる命とはどんなものなのか、時間をかけてしっかりと話し合いたい。そこで、本時の主題である「たくさんの人に大切にされる命」について、初発問から問い続けていきたい。

導入では、現在の命のとらえを知らせ、一つしかない大切な命をいただくとはどういうことかを児童に考えさせ、資料に出会わせていきたい。展開前段においては、治療や輸血という命そのものが支えられていることに気付かせるのはもちろんのこと、つらい治療にも立ち向かっていこ

うと前向きにがんばれたゆきの気持ちも支えることで命を大切に守っていこうとしていることを考えさせていきたい。そのために、「励ますことが、命とどうつながっているのか。」等の、繰り返し発問を用意しておく。

また、児童の考えがよく分かるように、板書を生かす工夫を取り入れていきたい。命が支えられているということがよく分かるように、命を板書の中心に置き、命の下に支える人を配置することで、たくさんの人が大切にしているイメージが持てるようにし、矢印などを使って、整理していきたい。また、板書を見せながら、大切にされなければならない命が、ゆきさんの命だけなのかを考えさせ、支える仕組みがつながったり、矢印が双方向になったりすることに気付かせたい。

展開後段においては、命の大切さを自分の命や友達の命と重ねて考えさせることで、資料の中だけではなく、これからの生活においても大切にしていかななくてはならないものだということが引き出せるようにしていく。そのため、展開前段で資料について板書に整理した図の中に、自分を置き換えて考えさせることで、どの命も大切な命であり、自分は支えられる存在でありながら、周りの人を支える存在でもあることに気付かせていきたい。

8 学習指導過程

発問の視点 (1) 資料への自己の生き方の投影 (2) 主人公（登場人物）の生き方の吟味 (3) 資料のもつテーマの追求 (4) 資料を生かした自己の検討

段階	授業展開	主な発問 (○) 中心発問 (◎) と児童の心の動き (・) [(1)～(4)は発問の視点]	留意点 (・) 評価 (*)
導 入	① 主題についての現在の受け止めを知る。 ② 主題についての問題意識をもつ。	1 「いのち」とはどのようなものか考える。 ○ いただいた○○と聞いて思い浮かべるものは何だろう。 ・ おかし ・ ゲーム ・ プレゼント 2 「いのちをいただく」意味について考える。 ○ 「いのち」は、人からもらったり人にあげたりできるものなのではないでしょうか。 ・ 「いのち」そのものをもらうことではないと思う。 ・ 手術などで、助かること。 ・ 救急車などで運んでもらって助かること。	・ 題名当てクイズをした後で、○○の中に「いのち」が入ることを知らせることで、命は一つしかないものであることをふり返らせ、驚きの気持ちをもたせる。 ・ 「もらう」と「いただく」の違いを考えさせることで大切なものであることを意識させる。 ・ いのちは、一つしかない大切なものであることを確認し、いただいた「命」は認知的な「命」そのものではないことに気づかせ、資料を読む必然性を生む。
	(資料提示) ③ いくつかの問いで主題を	3 資料「いただきたいのち」を読んで話し合う。	

展	<p>追求する。</p>	<p>○ ゆきさんの命が大きくなったのは、なぜでしょう。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院で治療をしてもらったから。 ・ 血液をたくさんもらったから。 ・ お母さんが看病してくれたから。 ・ 友達が励ましてくれたから。 <p>○ あなたが、ゆきさんの友達だったらどんなことをするでしょう。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手紙を書いて励ます。 ・ お見舞いに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆきさんが病気の時と、退院してからの命の輝きをハートの大きさを考えさせることで、命が大きく輝いていく様子を感じ取らせる。 ・ 看病や励ますが、ゆきさんの命とどうつながっているのか、繰り返し発問をして考えさせることで、生きていくためには周囲の支えが必要であることに気付かせる。
開		<p>○ 手紙や励ますが、ゆきさんの命を大きくしたのはなぜでしょう。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つらい治療も、頑張ろうと思えるから ・ 早く元気になって、みんなと遊びたいと思えるから。 ・ 励まされて、うれしくなるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の中に出てくるかわりだけでなく、さまざまなかわりに気付かせ、自分の命も様々な場面で支えられていることに気付くことができるようにする。 ・ 板書を見て、大切な命は一つだけなのかを考えさせ、ゆきさんを支えてきた人の命も大切であることに気付かせる。 ・ たくさんの人に支えられるのは、病気の時だけではないことに気付かせ、どんな時も命は大切にされるものであることを捉えさせる。
前			
段	<p>④ 導入の問いについてさらに深く主題を追求する。</p>	<p>4 主題「たくさんの人に大切にされる命」について考える。</p> <p>◎ ゆきさんは、「いただいたいのち」をこれから、どうしていったらいいでしょう。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いのちがなくならないように、大事にしていく。 ・ いのちをもらった人たちに、お礼を言う。 ・ いのちをいただいたことを忘れずに覚えておく。 <p>○ 「いのちがあることのありがたさ」ってどういうことだろう。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いのちがあれば、どんなこともできる。 ・ いのちがあるから、学校に行ける。 ・ いのちがあるから、また話ができる。 ・ いのちがあるから、楽しめる。 ・ みんなが笑って過ごせる。 	<p>* 「いのち」の大切さについて、自分のこととして考えている。(発言・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を言わせることにより、自分が生きていることに対する喜びを感じさせられるようにする。 ・ 支えられる矢印が、一つの方向に向くだけではなく、双方向に向くことを考えさせ、そして、それを板書することで、展開後段の考えにつなげる。
	<p>⑤ 板書を見な</p>	<p>5 自分の生活を振り返って考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の写真を用意し、板